

## 北海道家庭教育サポート制度をご存じですか



『北海道家庭教育サポート制度』は、家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業などと北海道教育委員会が協定を結び、互いに協力して、北海道の家庭教育の一層の推進を図るための取り組みです。

### Q. 協力企業はどんな取り組みをするの？

A. 職場の子育て環境づくり、職場見学・体験の実施、地域行事への協力・支援、学校行事への参加促進の中から1項目以上、生活リズム向上の取組、『道民家庭の日』等の普及の中から1項目以上を取り組むことになっています。

※詳しくは北海道教育委員会のホームページをご覧ください。

### Q. 登別市にも協力企業はあるの？

A. もちろんあります。市内企業では守屋建装(株)、興和工業(株)、(株)望月製麺の3社が協力企業として日々取り組みを行っています。

(株)望月製麺では次のような取り組みを行っています。

- ① 子どもの学校行事のときは、積極的に有給休暇の取得を促している。
- ② 朝礼時に、親子で朝ごはんをとるよう呼びかけを行っている。
- ③ 事務職の女性が出産したとき、事務所にサークルを設け、休憩室にベビーベッドを設置し、職場で子育てができる環境を整え、保育所に預けられる月齢に達するまで従業員で協力して子育てをした。

## 『イクジイ』が大活躍！

育児を積極的に行う父親(男性)を『イクメン』といいます。その高齢者版を『イクジイ』といいます。市内在住の『イクジイ』の方は、週に3日はお孫さんの面倒を見、晴れた日には散歩に行ったり庭にビニールプールを出して遊んだりするそうです。取材に伺った日は、絵本を読んだり積み木で遊んだりしていました。

自身の子育てのときも夫婦共働きだったそうで、育児に参加していたとのこと。このように『イクメン』『イクジイ』の2世代に渡る支援が、働く女性を支えています。

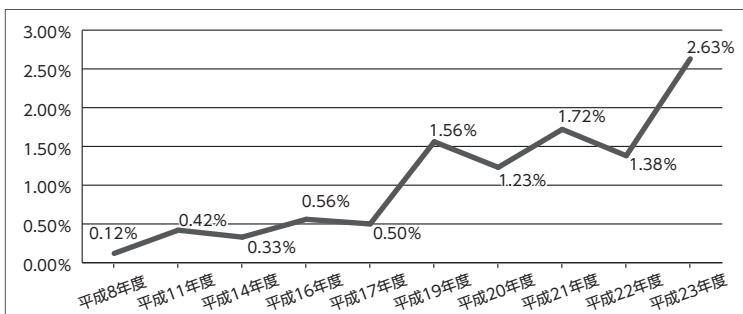


## 少しずつ、確実に上昇 男性の育児休業取得率

男性の育児休業取得率は女性に比べ低い数値で推移していますが、確実に上昇しています。

平成19年度には雇用保険法改正による育児休業者職場復帰給付金の引き上げなどが要因となり、男性の育児休業取得率は1割を超えました。さらに平成22年度から平成23年度にかけては育児・介護休業法の改正が後押しし、大幅に上昇しました。

まだまだ男性の育児休業取得率が低いことは確かですが、法律の改正など、育児休業が取得しやすい環境の整備が少しずつ進んできたことにより、男性にも子育てや家事に関わろうとする意識が浸透してきたのだと思われます。



▲男性の育児休業取得率の推移 (厚生労働省平成23年度雇用均等基本調査)

## 『仕事』も『妊娠・出産』もあきらめない 働く女性が仕事を続けられる環境を

女性の社会進出が進み、妊娠・出産後も働き続ける女性が増加しています。

しかし、妊娠・出産を機に仕事を辞める女性はまだまだ多く、第1子の出産を機に働く女性の約7割が退職するというデータも有ります(平成13年 厚生労働省)。

もちろん育児に専念したいから仕事を辞めるという方もいますが、仕事を続けられる職場環境や制度がないからという理由で、仕事をあきらめる方も少なくありません。

反対に、仕事を続けたいからという理由で、妊娠・出産をあきらめる方もいます。

子どもを持ちたいと願う働く女性が、『仕事』と『妊娠・出産』のどちらもあきらめずにすむ環境づくりが、今求められています。

## 男女共同参画作品展 表彰式にお越しください

6月に開催した男女共同参画週間作品展で入賞した標語14作品、習字27作品、ポスター1作品を表彰します。

日時 11月23日(金)

12時30分～

場所 市民会館



女性が安心して働き続けることができる社会へ